

「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」最終評価結果表

研究領域等	研究領域2 地域のアイデンティティーの解明—相互理解を深めるために—
研究課題名	中東とアジアをつなぐ新たな地域概念・共生関係の模索
責任機関	東京外国語大学
研究代表者	酒井 啓子（大学院総合国際学研究院・教授）
研究期間	平成18年度～平成22年度
主に研究対象とする国名	（湾岸諸国（イラン、イラクを含む））（アフガニスタン） （イスラエル／パレスチナ）

総合評価

- S. 所期の研究計画以上の取組が行われた。
 A. 所期の研究計画と同等の取組が行われた。
 B. 概ね所期の研究計画と同等の取組が行われたが、一部で当初計画以下の取組もみられた。
 C. ある程度所期の研究計画と同等の取組が行われたが、当初計画以下の取組もみられた。
 D. 所期の研究計画以下の取組であったが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられた。
 E. 総じて所期の研究計画以下の取組であった。

[コメント]

中東にかかわる官民学の情報や経験を交換交流し、新たな中東理解の知的枠組みをつくるという点で画期的な役割を果たした。特に、中東カフェを通じて、情報の交換や共有化について、学界のみならず、産業界、NPO、メディアに蓄積された情報を束ね、一般市民に公開するという斬新な試みが成功した点は、高く評価できる。

しかしながら、中東カフェをイベントに終わらせず、ホームページなどに発展させることや、ジャーナリズムがカバーできない深い情報を発信することも望まれたが、それについては十分になされたとは言えない。また、最初の計画が野心的に過ぎた面は否めず、計画の一部が十分に展開されなかったと思われる部分もあるなど、地域のアイデンティティーの解明、中東とアジアをつなぐ新たな地域概念・共生関係にむけた学術的な取りまとめを期待したい。

項目ごとの評価

1. 本事業の目的及び研究領域等の趣旨に合致した研究が実施されたか。

- A. 十分実施された B. 概ね実施された
 C. ある程度実施された D. あまり実施されなかった
 E. 実施されなかった

[コメント]

中東カフェによる情報の交換、共有化の目的は達成しており、この点は優れた成果として評価できる。社会的・政策的ニーズを、特定の分野や集団に限定せずに広く捉えて活動し、平時に日本市民が中東社会に親しむ機会を創出することには成功したと言える。中東との関わりにおいて、社会的・政策的ニーズが何であるかを模索した点も評価したい。特に、日本側についてはよい成果を得ることができた。

しかしながら、中東側については十分に調査がなされたとは言えない。また、模索の結果として、グローバルな政治や文化の潮流に対し既存の地域概念の限界を指摘したが、新たな地域概念や共生関係の提示にはいたっていない。このことは、関心を社会・文化へと拡大したため、「地域のアイデンティティー」に収斂させることが難しくなったことも一因と考えられる。

2. 設定されている社会的・政策的ニーズに応える形で研究が実施されたか(研究の過程)。

- A. 十分実施された B. 概ね実施された
 C. ある程度実施された D. あまり実施されなかった
 E. 実施されなかった

[コメント]

学界のみならず、産業界、NPO、メディアに蓄積された情報を束ねるという目的にむけて、政治や環境問題から映画・音楽までホットなテーマを取りあげる中東カフェを全国各地で精力的に開催し、中東の理解と交流に議論をまき起こし、それを踏まえ学術的な国際研究集会を行った点は、斬新で高く評価できる。日本における中東認識を把握するプロセスとしての中東カフェの役割は大きく、アンケート結果を分析すると、概ねニーズに対応したと評価できる。

しかしながら、中東側の日本認識を高め、相互交流を達成するという点は十分とは言えない。また、最終年度の終わりの時期に中東各地で革命が起きた際に、日本のジャーナリズムの死角を補うことが本事業に期待されたが、それに十分に即応できなかったことは、日本の市民が中東に関心を抱く絶好のチャンスなだけに、課題が残された。

3. 社会的・政策的にニーズに応える研究成果が創出されたか。

- A. 十分創出された B. 概ね創出された
 C. ある程度創出された D. あまり創出されなかった
 E. 創出されなかった

[コメント]

ワークショップ、ネットにおける発信状況、作成された報告書を見ると、研究成果は概ね創出されたといえる。また、刊行物を見ると、真摯な努力が伝わってくる。

しかしながら、中東カフェ、紛争研究、地域概念などの諸活動の総合的な分析には至っておらず、全体としての深化がさらに望まれる。

4. 学術的に高い水準が確保されているか。

- A. 十分確保されている B. 概ね確保されている
 C. ある程度確保されている D. あまり確保されていない
 E. 確保されていない

[コメント]

個別の研究業績の学術性は確保されている。特に、研究代表者による国際発信は高く評価できる。

しかしながら、チーム全体として学術的論文が少なく、報告書レベルにとどまっているものも多く見受けられる。また、全体のテーマである地域概念の検討についても、十分深みのある成果が公表されているとは言えない。各メンバーの刊行物はテーマ的に分散しており、本プロジェクトの目的を直接的に反映した成果を公開することが望まれる。